

---

## 書評「親指の恋人」(石田衣良著)

ごはんライス

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

書評「親指の恋人」（石田衣良著）

### 【Nコード】

N5912D

### 【作者名】

ごほんライズ

### 【あらすじ】

石田衣良さんの新作長編「親指の恋人」の書評・・・と言いつつ、自分の意見を言ってるだけ。しかも、まだ読んでる途中だし！

衣良さんの新作。書評ちゅうわけだが、ちょい禁じ手をやらかす。実はまだ全部読んでないのだ。

金持ちのボンボンと貧乏な女の子の恋物語。読んでないながらも、しかし、オチははっきりしてる。心中してしまうのだ。オレはここをつつく。

まず白状しておく、オレは自殺は苦手だ。信長や竜馬や野口英世や手塚治虫やジョン・レノンが好き。つまり、殺されちゃうようなキャラが好きなんやね。

まあ手塚先生はね、ガンだけでも、若くして死んでるからね、あれは完全に仕事に殺されとる。

まあ過労死ちゅうのはね、いかんよ。トヨタの過労死に関する裁判ね、あれ勝訴したけど、あれはいいよね。いいちゅうか当然だよ。ね。国が認めた。でも、会社が認めとらん。さっさと認める。会社の利潤より従業員の命の方が大事だぞ。

ただ、手塚先生は、なんとというんだろうなあ。ベッドの上に画板を広げてね、「もつと描きたい！もつと描きたい！」てね。連載三本抱えて。ガンで頬がガリガリに痩せこけながらね。闘病日記に漫画のアイデアを書き込んでしまう作家はなかなかいない。しかも、十五万枚描いて「まだ描きたい」て。そういうところが好きだ。

まあ信長は一応切腹しとるけど、彼も若くして死んでる。志半ばや。「光秀ごときに髪一本やらん」とか格好いい。

竜馬もかっこいい。薩長同盟とか大政奉還とかどえらいことやらかしてるけどそれは竜馬の目的ではない。竜馬の目的は貿易事業。

大政奉還後の中央政府の役職名を書いた紙を西郷せいごどんに渡した時、西郷はフシギがった。

「さ、坂本さあの名が書いてないでござすが?????」  
その場に居合わせた西郷の相方大久保はしかめツラした。「こい



ば野口の「病人を目の前にして眠ってられるか」という医学者魂にある。食っていけないのに何のためにオレたちは職場に行く。死ぬために職場に行くようなもんではないか。しかし、オレたちが今している仕事は社会の役に立っている。大げさに言えば、オレたちが仕事をやめたら社会が機能しなくなる。

いいです。野口。すごくいい。宮沢賢治もいいな。ムリして若死にしているが、「世界の幸福なしに個人の幸福なし」といったノリはすごくわかる。賢治が当時満州国を支持してたこと、オレは理解できる。満州国はまさに民衆を豊かにしようという意気込みで燃えた国家であった。倒産したけど。

だから、三島とか太宰とか、どうもダメなんだよなあ。いや、読んだことないからわからんのやけど作品はいいんでないかなとは思うけど。知り合いでごっつい三島ファンがいるんで。

しかし、自殺はあかんなあ。

といつつ、わかる面もある。世間の人は三島の自衛隊基地での自決を「不可解」と捉えているが、まあ行動はトリッキーだね。しかし、三島の論理は矛盾しとらんねん。アメリカの植民地なのに独立したような顔してる国民の方が矛盾しとんねん。独立してへん日本に絶望して自決したんやね。

あとね、そうはいつても、自殺した人で好きな人もそりやおるよ。ゴッホだ。賢治と同世代だな。死んだ年齢も近い。

精神が爆発して最期、ピストル自殺してしもうたが、なんといつても彼の絵にはパワーがある。エネルギーがある。そこだ。もうそこだ。作品だ。

そりや自殺は悪いことさ。でもな、あんなすげえ作品を生み出した男が悪いヤツのわけねえ。

生きとつても悪いヤツなど山ほどおる。

ていうか！

衣良さんはどこに行ったんだ？ 衣良さんもイライラしてるよ。オレの出番はまだなのかよって。

じゃあ、ここで戻る。衣良さんの新作は最後、主人公たちが心中してしまっただよな。

それはオレが苦手なのは例をたくさん出したからわかってもらえたと思う。

しかしね、それでも、オレは文学でそれをやるのはけっこういいことだと思ってる。ひそかに自殺防止効果になってるんでないかと。恋だ何だで自殺すんのは甘ったれてる、なんちゅうのはおっさんの発想だ。若者は本当に死ぬかどうかのところ恋愛をしている。オレだって経験がある。学生の頃、好きな子が結婚した時マジで自殺するところだった。笑わないでほしい。マジだったんだから。

そんな若者がこの「親指の恋人」を読んでね、「ああ。わたしも自殺しようかなあ」なんて思わないツスよ。「スミオとジュリアは真剣に愛し合った。二人の分も私しっかり生きなくっちゃ！」となるよ。

全部読んでないので説得力がないが……  
読んでからまた感想書きます。また違った見方が出てくるかもしれない。ただ、今読んでるページの時点では単純におもしろいです。衣良さんていい文いい書くよね。プロだから当たり前だろ、とかそういうことじゃなくてさ、ほんとにいい文書くよ。沁みる。

最後に、オレは自殺というのは苦手だけど、「自殺するヤツは心の弱いヤツだ」なんて世間の紋切り型の意見も苦手だということをお白状しておこう。そりゃね、「自殺ってかっこいいね！」「なんて発言したらちびっこが真似してしまうからいかんのやけどね。それに「自殺するヤツはへばい」と言うときゃ、自殺してヒーローになろうと企んどる子が「じゃーやめた」とかなるからそれはいいんだけど、しかし、単純にそれだけだと、特別攻撃隊の説明ができません。

特攻隊のじっちゃんたちはなぜ敵艦に体当たりしたのか？ マインドコントロールされてたのか？ 単なる犬死なのか？

オレは違うと思うなあ。美化するつもりはないけど、今の自殺とちよっと違う。国を守るため。簡単に言えばそういうことだけ、

君たち、国のために自分の命を投げ出すことができるかい？

できんだらう。オレはできん。できんヤツがね、「アホじゃないの」とか「犬死にだ」とか言うのはほんとバカくさいわ。

いやま、ほんと美化するつもりはないんですよ。そりゃね、特攻がね政策としていいとは全然思わんですよ。でもね、実際に特攻をして散っていった人たちを「かわいそう」の一言で片づけるのはちと冒涇のような気がする。実際、いろいろ葛藤がありながらも彼らは国を守るために出陣したんだしね。生き残ったじっちゃんたちが言うならわかるよ。でも、特攻隊のじっちゃんたちががんばったおかげで今を生きることができてる我々が「かわいそう」と言うのはおこがましいというか偉そうというか・・・て偉そうに現代人批判しとるな。お前も現代人だろ！

まあしかし、今は自分のために自殺する人が多いやな。いじめとかストレスとか社会不安とか。こういうのも何とかせんといかん。

(了)

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5912d/>

---

書評「親指の恋人」(石田衣良著)

2009年3月24日10時58分発行